

「森と水と命の惑星」国際会議

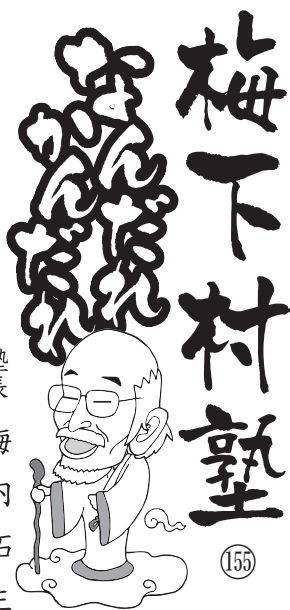
～地域と世界の心と魂を詠む～

(歴史と知恵)
シリアをはじめとする中東諸国や北朝鮮の独裁政権が引き起こしている経済、人道、軍事、選挙などの諸問題、一党独裁の中国共産党政府が引き起こしている帝國的権益の拡張。これらに対応している国々の国内外的問題などがオンタイムに情報が世界を駆け巡る現代。これらの状況が流動化する中で、21世紀がどこを目指しているのかを予測するのが難しくなっている。

この困難な状況の中で生き抜くためには、歴史から知恵を創造する努力の中にこそ人類が地球上で生き残る道が生まれてくるものと考えられる。世界でも短い詩である五七五(俳句)、五七五七七(短歌)を詠むことのないなかには歴史学と現代科学がもたらした膨大な情報の中から、生きる知恵を生み出す道が姿を現してきており、梅下村塾に連載を続けている。

3・11の東日本大震災の時に救援の手を差し伸べてくれた世界の人々が、気仙地方の歴史と知恵の中にあの素晴らしい忍耐と行動規律が息づいていることを発見したのである。気仙地方の世界への出版が期待されている。

(鎮魂とよみがえり)
4月19日の第3面に



塾長 梅内 拓生

155

「投稿 CO2で海が危ない 三陸町越喜来平田栄夫」は空気の二酸化炭素(CO2)が増加することで地球が温暖化し、さらに海水の酸性化により珊瑚などが大量に死滅しているが、海が二酸化炭素の吸収の飽和状態になると、大気中の二酸化炭素が増加して、生態系の微妙なバランスの中で死存してきた人類はどうなるのだろうか。人類の生存の危機について述べている。この深刻な事態に対応するために、生態系とのバランスの中で、高度な文化をつくった江戸文化の魂をよみがえさせることも一つの知恵である。

き日のつもりで遠き昔かな」は現在と過去の魂のつながりを詠んでおり、「春の海終日(ひねもす)のたりのたり哉」は母なる海に生まれ、抱かれているゆったりとした魂の世界を詠んでいる。3・11東日本大震災に耐えて立ちあがった気仙地方の歴史と魂がよみがえることを願う。

(とわすがたり)
ノリ 東海新報の記事には鹿踊りや鬼剣舞の地声リズムが感じられるね!

オサム 3・11の鎮魂がのりうつつているのだろうよ!

アツシ 夏の盆踊りや虎舞、獅子踊り、鹿踊りや鬼剣舞の伝統行事がよみがえってきているのかな!

ノリ 住田町は森林文化の保存に力をいれているね!

オサム 湾口防波堤と湾内海水の生態系の調査はどうなっているのかな!

与謝蕪村の俳句「暎